

第2部

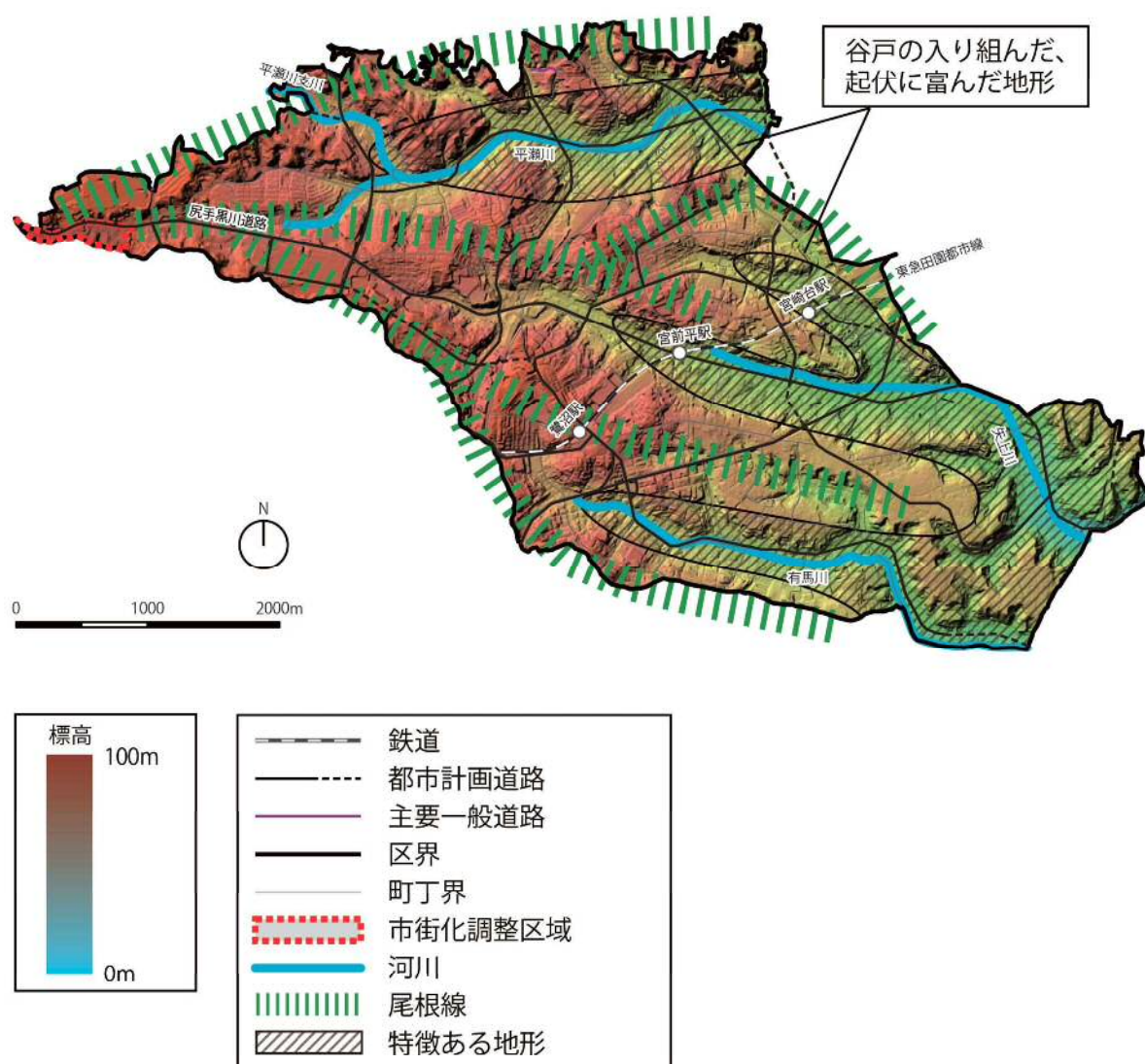
まちの現状

I まちの現状

1 宮前区の位置と地勢

- 宮前区は本市の北西部、多摩丘陵の一角に位置し、区内には平瀬川、平瀬川支川、矢上川、有馬川の4つの河川が流れています。これらの川に挟まれて、丘陵、坂、谷戸などで構成された起伏に富んだ地形が特徴です。
- かつては、山林の中に畑作と谷戸の稲作を中心とする農村集落が点在する地域でした。

■標高図

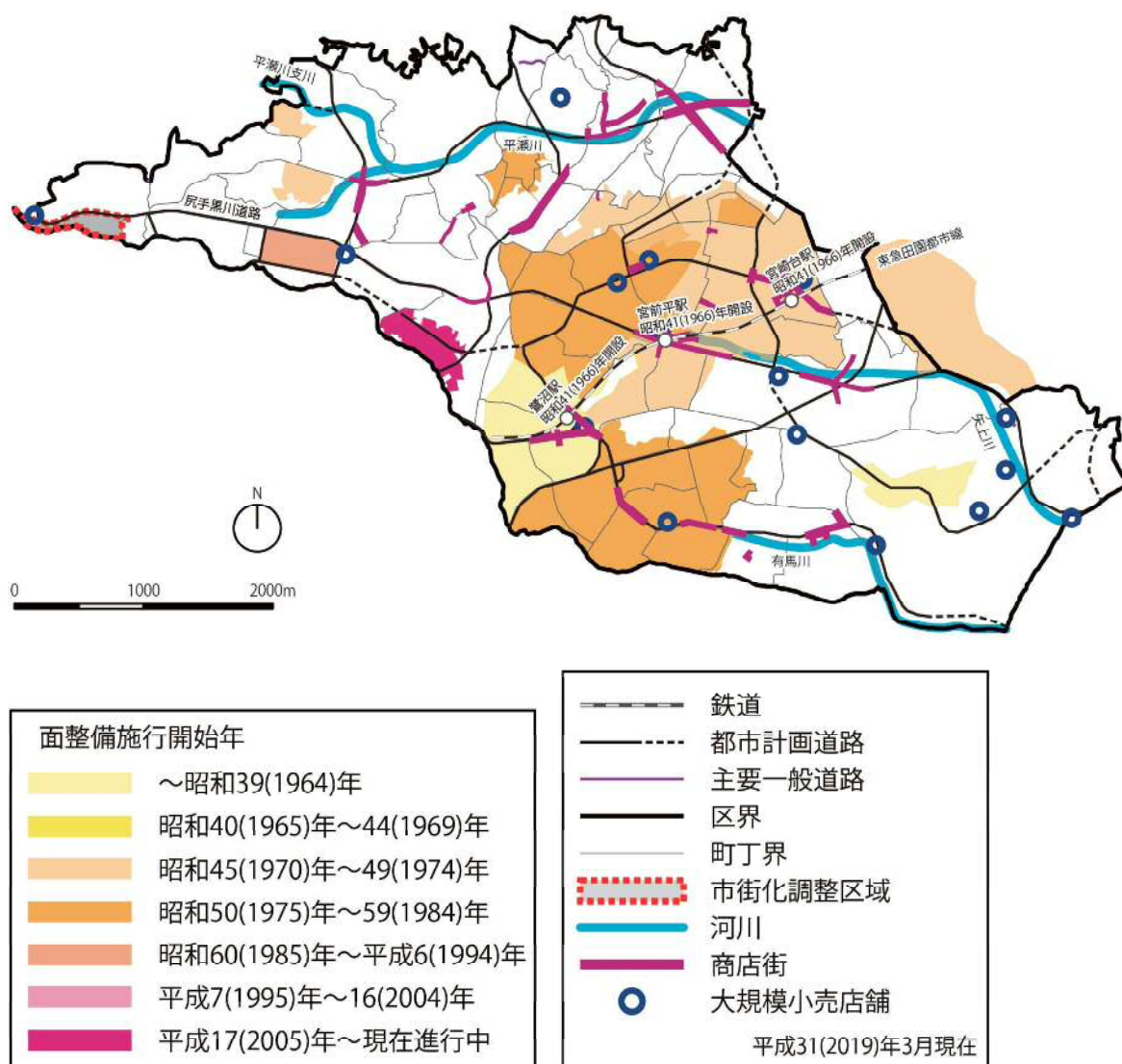


出典：地理院タイル（色別標高図）を加工して作成

2 市街地の成り立ち

- ・昭和30年代の高度成長期以降、拡大を続ける東京圏の市街化の進展が宮前区にも広がり、昭和41(1966)年には大井町線(現在の東急田園都市線)が溝の口駅から長津田駅まで延伸し、区内に宮崎台、宮前平、鷺沼の3駅が誕生しました。
- ・鉄道の延伸などに併せて、昭和30年代以降、野川地区、有馬、土橋地区、宮崎地区などで土地区画整理事業が開始され、本格的な都市化が進展しました。
- ・これら居住環境の整備に伴い、大規模住宅団地の開発も相次ぎ、現在の住宅地が形成されました。

市街地の変遷

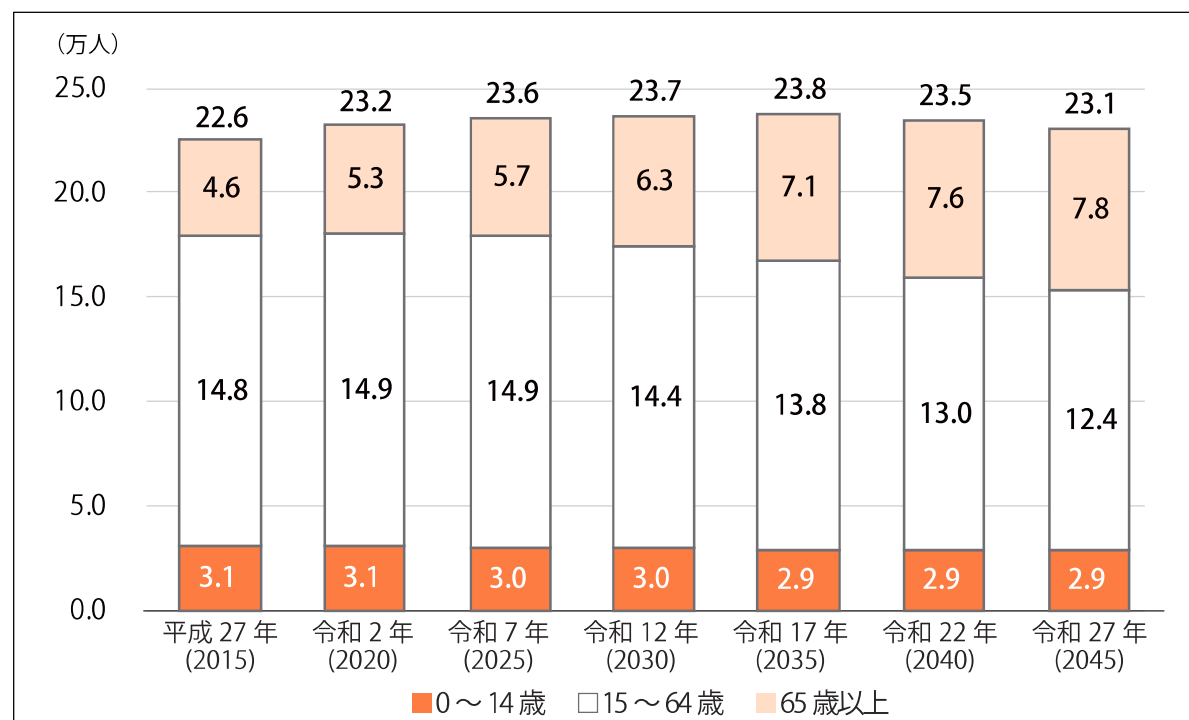


出典：国土数値情報・川崎市まちづくり局

3 人口

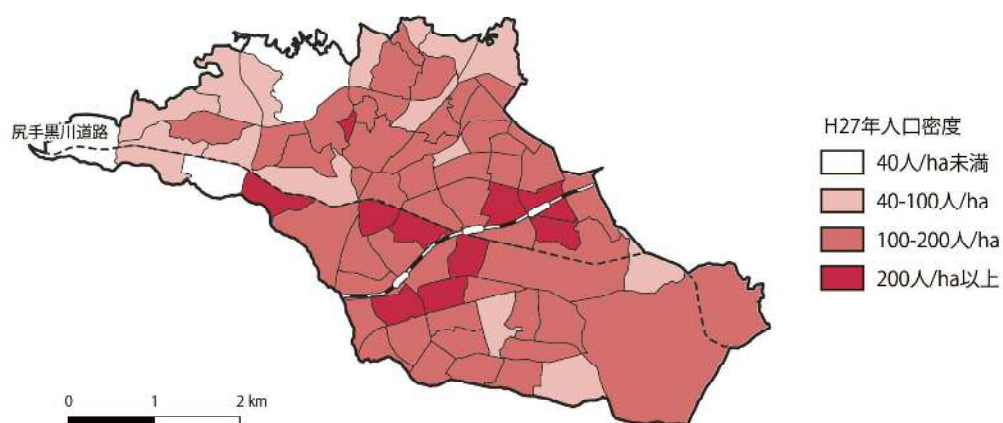
- 宮前区の人口は、平成 27 (2015) 年には 22.6 万人となっており、高津区から分区した昭和 57 (1982) 年の 14.8 万人から約 50% 増加し、さらに増加を続けています。
- 将来人口推計では、令和 17 (2035) 年の約 23.8 万人をピークとして人口減少へ転換することが見込まれています。
- 令和 27 (2045) 年(約 30 年後) の人口は 23.1 万人と、平成 27 (2015) 年を上回る水準を維持しますが、年齢別の内訳を見ると、65 歳以上の高齢人口が 4.6 万人から 7.8 万人へと増加することが予測されています。
- 15 ～ 64 歳の生産年齢人口や 14 歳以下の年少人口は、現在、ピークを迎えており、今後は減少に転じると見込まれています。
- 町丁別に人口動態をみると、鉄道駅周辺を中心に、人口密度が 1 ha あたり 100 人を超える地域が多く見られます。
- また、平成 22 (2010) 年から平成 27 (2015) 年にかけて、尻手黒川道路以南の地域を中心に人口の増加が見られる一方で、駅から離れた区北部の尻手黒川道路以北の地域を中心に人口が減少している町丁が多く見られます。また、駅から離れた地域で高齢化率が高い傾向にあります。このように人口減少や高齢化の進展する地域も見られることから、地区ごとの人口動態の特徴を踏まえ、高齢化や人口減少に伴う住環境や生活利便、地域コミュニティなどに関わる様々な問題を把握し、対応していくことが求められています。
- 平成 30 (2018) 年の転出入は、転入 14,016 人、転出 13,248 人であり、転入から転出を差し引いた社会増減は 768 人の転入超過となっています。転出入は、高津区、東京都世田谷区、横浜市青葉区との間で多く、鉄道沿線で行われている傾向が見られます。
- 平成 27 (2015) 年の宮前区の昼間人口は 165,620 人、昼夜間人口比率は市内で最も低い 73.4 であり、ベッドタウンとしての性格が強いまちといえます。

■将来人口推計（年齢3区分別）



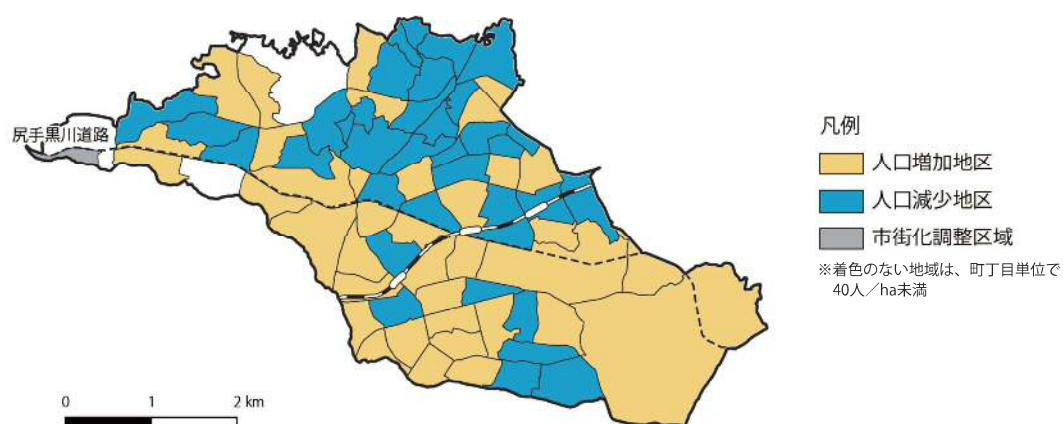
出典：川崎市将来人口推計（平成 29 (2017) 年 5 月）

町丁別人口密度



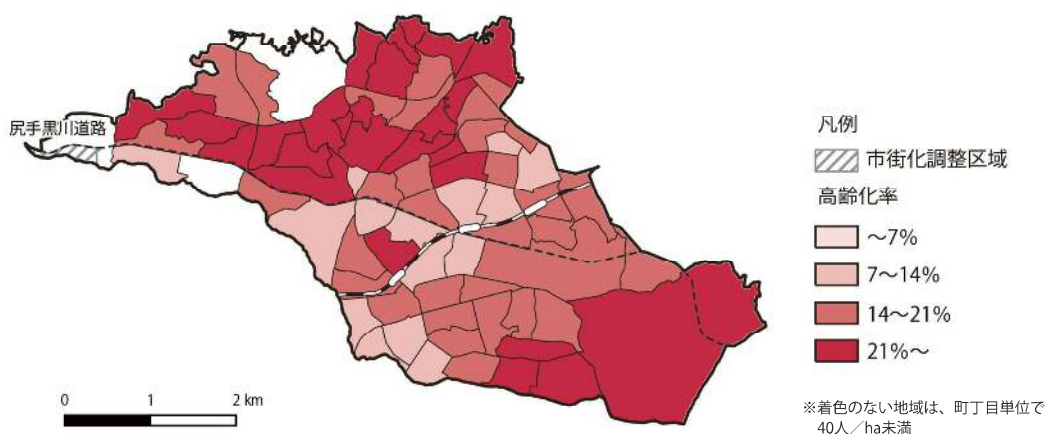
出典：川崎市住民基本台帳人口より作成（平成27（2015）年9月）

町丁別人口増減



出典：川崎市住民基本台帳人口より作成（平成22（2010）年9月と平成27（2015）年9月の比較）

町丁別高齢化率



出典：川崎市住民基本台帳人口より作成（平成27（2015）年9月）

■転出入（平成 30（2018）年）

転入	14,016人
転出	13,248人
増減	+768人

出典：川崎市の人口動態（平成 31（2019）年 3 月）

■昼間人口（平成 27（2015）年）

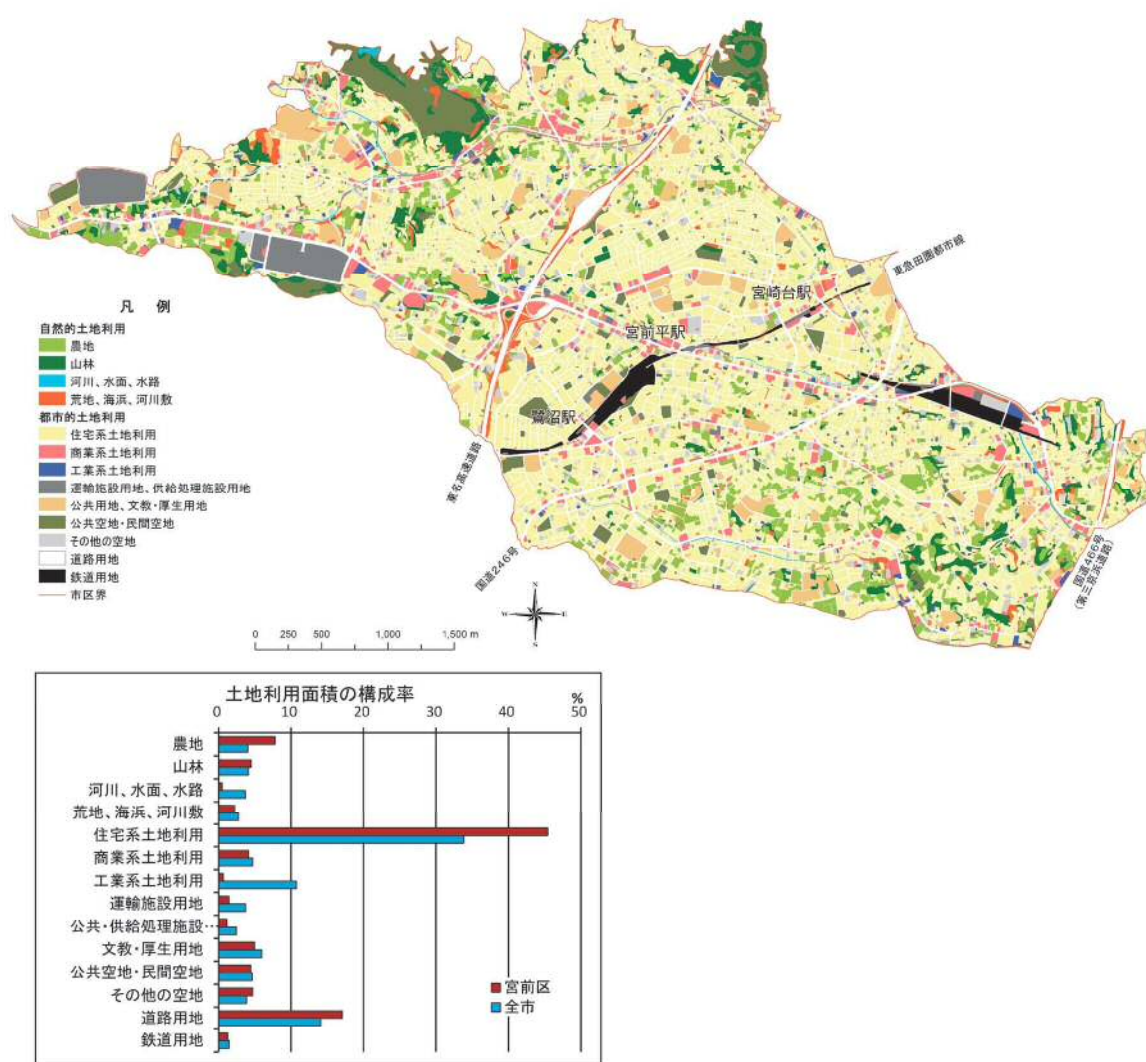
夜間人口	225,594人
昼間人口	165,620人
昼夜間人口比率	73.4

出典：川崎市の昼間人口（平成 30（2018）年 4 月）

4 土地利用

- ・宮前区の土地利用面積の構成をみると、全市平均と比べて農地の割合が約2倍となっており、住宅系土地利用の割合も高い状況にあります。商業系土地利用の割合は全市平均よりやや低く、工業系土地利用の割合は非常に低い状況です。
- ・市街地内に多数の農地が残されており、鉄道駅から離れた地区の一部では農地の割合が高くなっているほか、一部山林が残されているところもあります。
- ・商業系土地利用については、鉄道駅周辺だけでなく、主要な幹線道路の沿道にも多く見られます。
- ・これらを除く地区の多くは、住宅系土地利用で占められています。

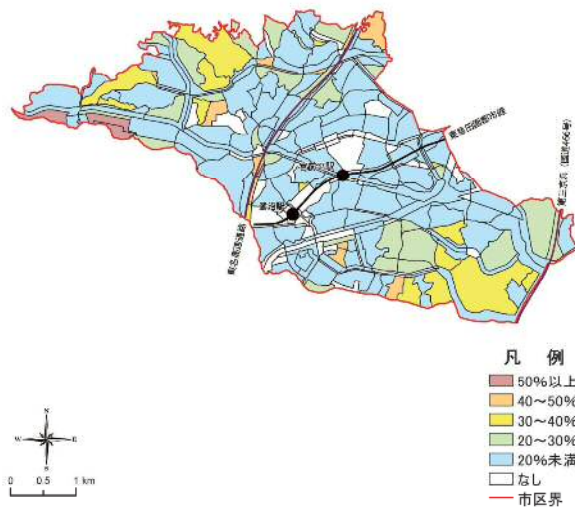
■土地利用現況図



出典：都市計画基礎調査（平成27（2015）年）

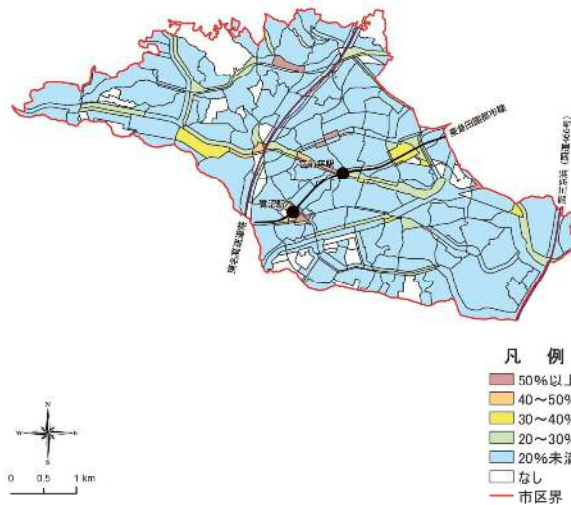
■自然的土地利用率図

$$\text{自然的土地利用率 (\%)} = \frac{\text{細ゾーン内自然的土地利用面積}}{\text{細ゾーン面積}} \times 100$$



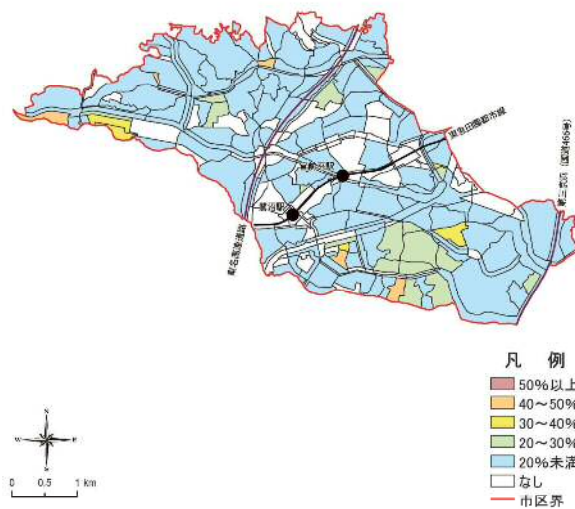
■商業系土地利用率図

$$\text{商業系土地利用率 (\%)} = \frac{\text{細ゾーン内商業系土地利用面積}}{\text{細ゾーン面積}} \times 100$$



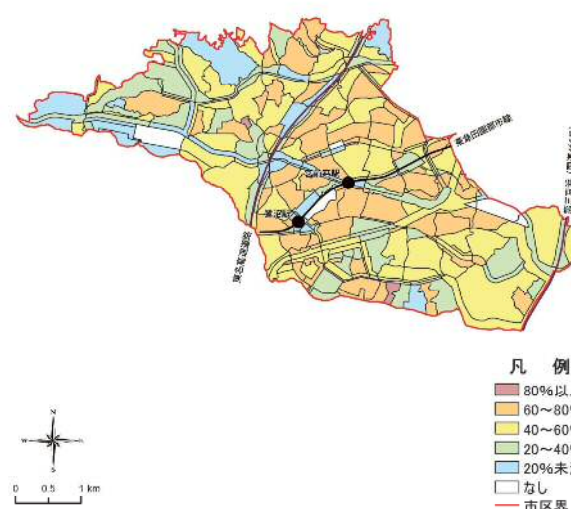
■農地率図

$$\text{農 地 率 (\%)} = \frac{\text{細ゾーン内農地面積}}{\text{細ゾーン面積}} \times 100$$



■住宅系土地利用率図

$$\text{住宅系土地利用率 (\%)} = \frac{\text{細ゾーン内住宅系土地利用面積}}{\text{細ゾーン面積}} \times 100$$



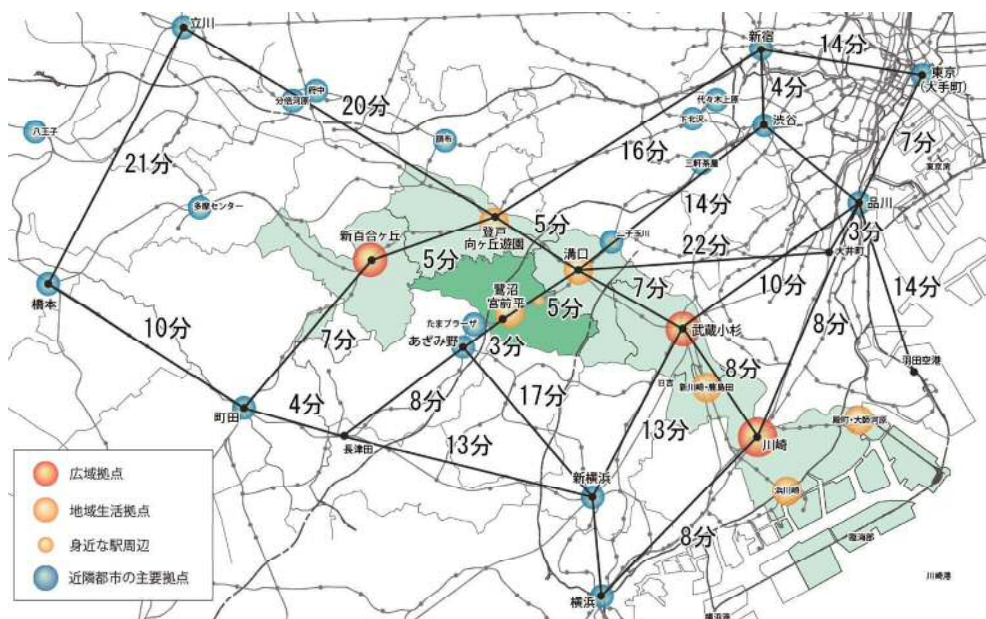
出典：都市計画基礎調査（平成27（2015）年）

5 交通環境

(1) 公共交通の状況

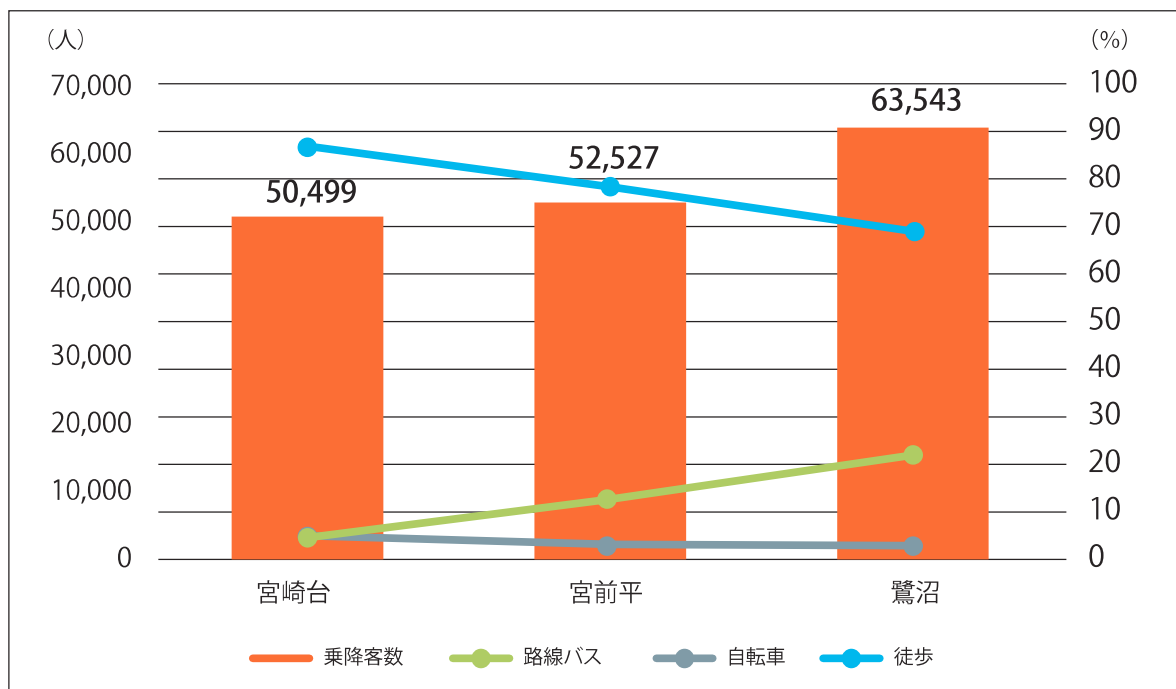
- 東急田園都市線により、宮前区の骨格となる鉄道網が形成されており、放射方向に東京都心や大和方面へとつながっています。また、路線バスについては、地域の大切な交通手段として、地域の特性や需要などに応じたネットワークの形成が進められています。

■主な駅間の所要時間



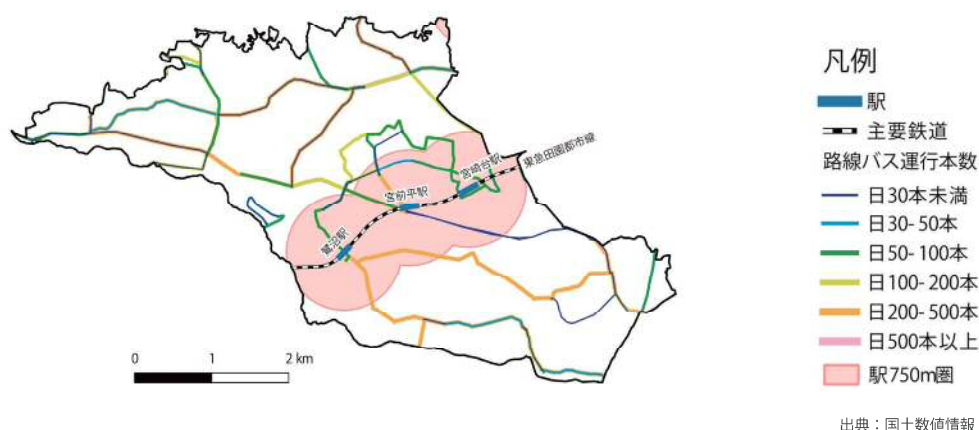
※図中の主な駅間に記載している各所要時間は、平成30(2018)年4月現在の各鉄道会社のホームページに掲載されている時刻表(平日)から算出しており、全ての列車種別(特急券等が必要な列車を除く)の中で最短の時間を記載しています。

■鉄道乗降客数と端末交通手段分担率



出典:鉄道各社HP(平成30(2018)年度)・東京都市圏パーソントリップ調査(平成30(2018)年)

■路線バス網図



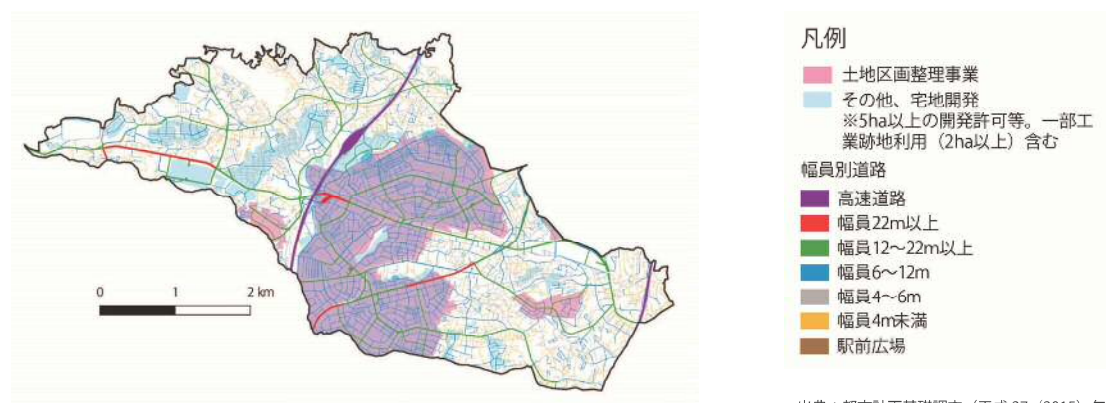
(2) 道路の状況

- ・宮前区の都市計画道路は、総延長約 42.7 km、完成延長約 37.3 km、進捗率約 87%であり、7区の中で最も高い進捗率となっています。
- ・土地区画整理事業が行われた地区では道路基盤が整っていますが、面的整備がなされないまま市街化が進んだ地区では、狭い道路が多く残るなど、課題を抱えた地区もあります。

■都市計画道路区別進捗率（平成 30（2018）年 4 月 1 日現在）

区	計画延長	完成延長	進捗率
川崎区	87,900m	64,922m	74%
幸区	22,680m	14,506m	64%
中原区	30,960m	21,200m	68%
高津区	36,690m	22,895m	62%
宮前区	42,700m	37,345m	87%
多摩区	41,770m	21,793m	52%
麻生区	42,860m	25,123m	59%
計	305,560m	207,784m	68%

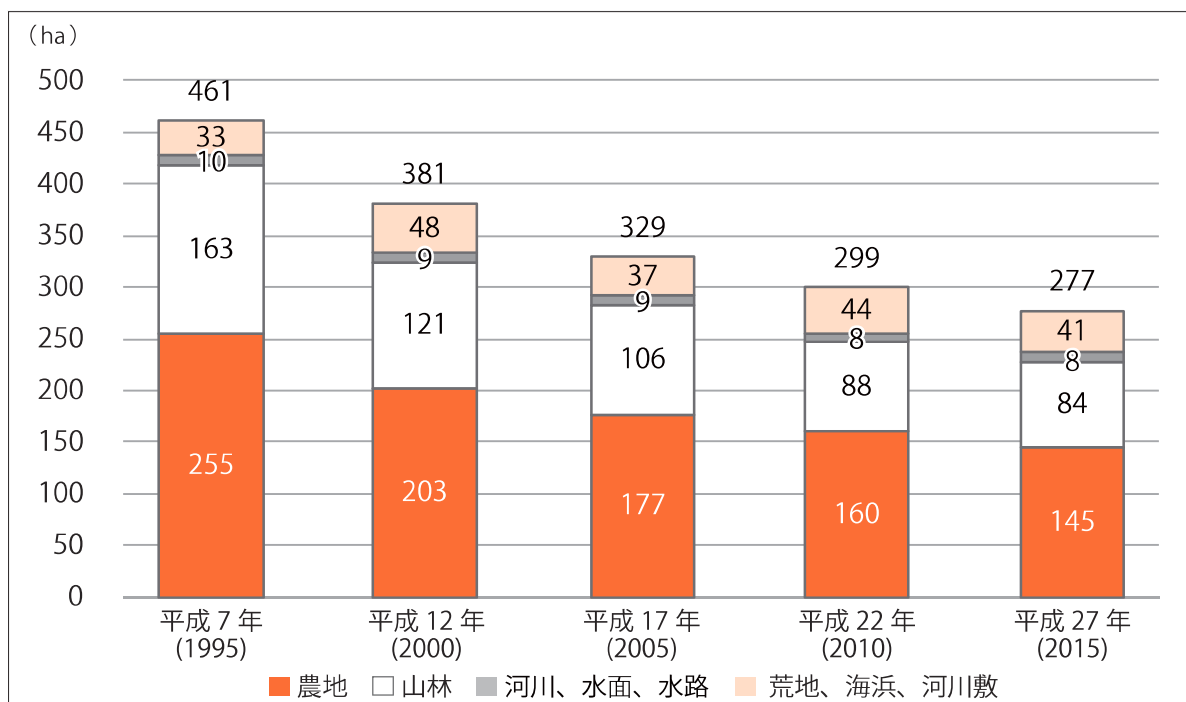
■道路網図



6 緑地や農地等の状況

- ・宮前区は、多摩丘陵の斜面緑地や農地をはじめ、豊かな自然環境を有しています。しかし、開発などにより農地や山林などの緑地の総量は減少し続けています。
- ・区民一人ひとりが愛着や誇りを持つ地域の資源として、河川や緑地、農地などの自然環境の価値を引き継ぎ、高めていくことが求められています。

■自然的土地利用の推移

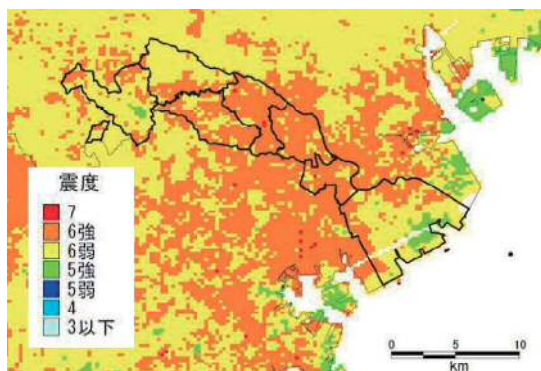


出典：都市計画基礎調査（平成 27（2015）年）

7 災害予測の状況

- ・宮前区では、川崎市地震被害想定調査により、川崎市直下型地震（M 7.3）における区内の震度は6弱～6強であると想定されており、建物被害が8,067棟（全壊・半壊合計）など大きな被害が予測されています。

■川崎市直下地震の被害想定

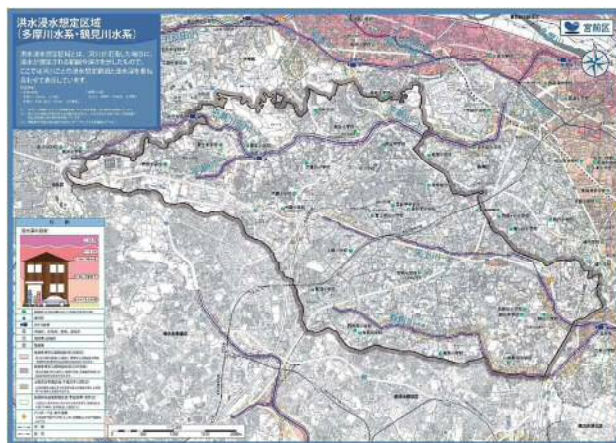


建物被害	
全壊	半壊
1,811棟	6,256棟
地震火災	
出火	延焼による消失棟数
38件	1,663棟
人的被害	
死者	重軽傷者
64人	1,618人

出典：川崎市地震被害想定調査（平成 24（2012）年度）

- ・宮前区では、鶴見川水系の河川の氾濫時に、河川沿いの一部の地域で浸水が想定されています。

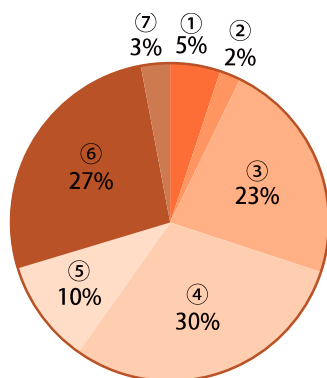
■宮前区洪水ハザードマップ



8 協働のまちづくりの取組

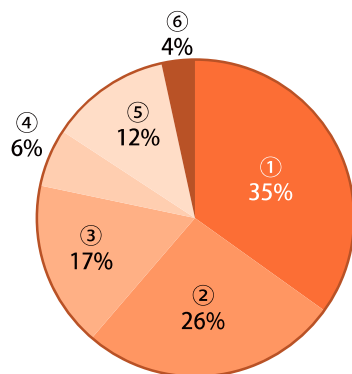
- ・協働のまちづくりに対する宮前区民の意向は、アンケート調査から、今後、まちづくり活動へ参加したいと答えた方の割合が高く、協働のまちづくりに対する意識の高まりが伺えます。
- ・一方で、まちづくりに関する情報提供の充実や、積極的に活動しやすい環境づくりを求める意見が多くあり、まちづくりに関する情報周知を効果的に行うとともに、まちづくり活動への参加を促進する環境づくりが求められています。

■まちづくり活動への参加状況



- | |
|-------------------|
| ①すでに参加している |
| ②参加したい |
| ③興味のある内容であれば参加したい |
| ④時間的な余裕があれば参加したい |
| ⑤参加したくない |
| ⑥情報がない |
| ⑦その他 |

■協働のまちづくりを進める上で最も重要なこと



- | |
|-------------------------------------|
| ①行政から市民へ、まちづくりに関する情報をもっと提供すること |
| ②市民が積極的に活動しやすい環境をつくること |
| ③行政と市民、企業、大学等が連携するまちづくりに関する組織をつくること |
| ④企業、大学等が地域貢献しやすい環境をつくること |
| ⑤市民が主体的にまちづくりの検討や提案ができるしくみを強化すること |
| ⑥その他 |

出典：都市計画マスタープランの見直しに関するアンケート調査（平成27（2015）年）

Ⅱ 近年のまちづくり

従前の宮前区構想の策定（平成19（2007）年3月）以降、さまざまな主体によりまちづくりに関する活動が行われてきました。こうした活動をさらに発展させながら、今後のまちづくりにつなげていく必要があります。

ここでは、「近年のまちづくり」として、おおむね10年の間に行われた取組の中から、本市が実施した整備を中心に、地域主体による新たな活動も含めて、一部をご紹介します。

- ・初山住宅などの老朽化した市営住宅の建替えや長寿命化改善が、順次進められています。
- ・尻手黒川道路の馬絹交差点や清水台交差点では、渋滞箇所の先行的解決に向けて、交差点の改良などが行われました。
- ・防災面では、宮崎地区で下水道の整備による浸水対策が実施されたほか、潮見台配水池、鷺沼配水池で耐震化整備が実施されました。



清水台交差点付近



建替えを行った市営住宅



Ⅲ 地域資源

地域資源は、地域の特性に応じたまちづくりを進めるうえで、活かすべき重要な要素のひとつです。ここでは、地域の施設や自然環境のほか、地域の活性化に貢献している機関や団体も貴重な地域資源と捉えて、その中から主なものをご紹介します。

- ・宮前区は、橘樹官衙（たちばなかんが）遺跡群として国史跡に指定された影向寺（ようごうじ）遺跡をはじめとした歴史・文化、農のある風景や平瀬川流域の水辺、菅生緑地などの緑豊かな自然など、魅力ある地域資源に恵まれています。また、豊かな自然環境を活かした区民主体のまちづくりの取組が盛んです。
- ・飛森（とんもり）谷戸は、生田緑地の初山地区の一角に位置し、森と小川、水田という里山の風情があり、野鳥やゲンジボタルも見られます。また、平瀬川・平瀬川支川は、地域住民の意向を採り入れた多自然型親水護岸として整備され、コサギやカワセミの姿も見られます。いずれも、その保全などに取り組む地域住民の団体が国からの表彰を受けており、区内外から高い評価を受けています。
- ・県立東高根森林公園は、弥生時代の集落跡を埋蔵保存している「古代芝生広場」や野草が茂る湿生植物園、県天然記念物に指定されている樹齢150年を超えるシラカシ林があり、貴重な緑の空間となっています。
- ・中央卸売市場北部市場は、立地優位性を活かした食品流通の拠点として、安全で安心な生鮮食料品の安定供給などを担っています。

①飛森谷戸



②県立東高根森林公園



③影响寺

